

# 葉山町ごみ処理基本計画(案)

## 概要版



平成25年度末までにごみ半減!



### ○ 計画策定の趣旨

葉山町は、平成14年3月に、平成22年度までを計画期間とする現ごみ処理基本計画を策定しました。循環型社会の形成に向け、国レベルでも各種法整備が進められる中、町では、平成20年6月に『葉山町ゼロ・ウェイストへの挑戦』を発表し、ごみの削減に正面から取り組んでいく決意を示しました。

本計画は、現ごみ処理基本計画の期間満了に伴い、町のごみ処理のあり方を総合的な見地から検討し、町民・事業者・行政が一体となって資源化減量化を推進していくための指針として、計画を改定するものです。計画期間は平成22年度から平成31年度までの10年間とし、概ね5年ごとに計画の見直しを行うこととします。

### ○ 計画の基本理念

## ゼロ・ウェイストのまち葉山をめざします

ゼロ・ウェイストは、英語で「ごみや無駄をゼロにする」の意です。ごみの資源化減量化及び処理の効率化などにより、資源やごみ処理の無駄を段階的になくしていくことを目指します。葉山町の考えるゼロ・ウェイストは、以下の3点に集約されます。

1. ごみを減らす……リサイクルだけでなく、ごみの発生抑制を進めます
2. 無駄をなくす……資源の無駄、処理費の無駄をなくします
3. 地域の力が高まる…町民・事業者・行政の協働により、まちの活力を高めます

## ○ 計画の基本方針

次の基本方針に基づき、ゼロ・ウェイストのまち葉山をめざします。

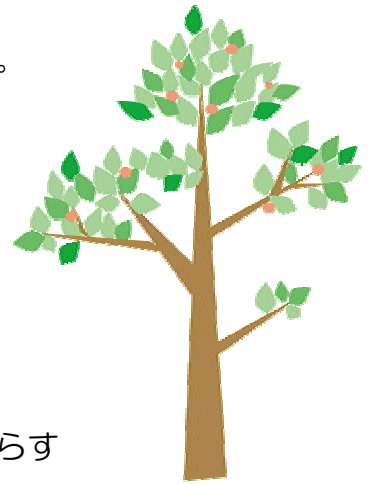
方針1. 地域に合った方法を選ぶ

方針2. 実践から発想する

方針3. 適正な処理技術・施設を選択する

方針4. 良い取り組みが報われる

方針5. 5年ごとに「半減目標」を繰り返し、段階的にごみを減らす



～第1期目標として、まず平成25年度末までにごみの半減を目指します～

以上の方針に基づき、第1期目標として平成25年度末までにごみを半減（詳細数値は下記参照）、第2期目標として平成30年度末までに更に半減させることを目指します。

## 第1期の数値目標

計画中間年の第1期（平成25年度末）までに、以下の数値目標の達成を目指します。第2期（平成30年度末）の次期半減目標については、第1期の実績を踏まえ、平成26年度以降に向けた計画見直しに合わせ、具体的な数値を示します。

指 標	基準年実績値 (平成18年度)		平成25年度目標値
① ごみの焼却の半減 可燃ごみ及びプラスチックごみの年間焼却量	10,681ト	➡	5,340ト
② ごみの埋め立ての半減 不燃ごみの年間最終処分量	573ト	➡	286ト
③ 資源化率の向上 総排出量に占める再資源化の割合	15.6%	➡	45%
④ 生ごみ処理普及率の向上 生ごみ自家処理普及世帯の割合	17%	➡	30%
⑤ ごみ処理費7億円以下 年間のごみ処理費	9.7億円	➡	7億円以下

# 第1期目標に向けた主な施策

## ① 新しい分別収集 ～わかりやすく快適な分別収集の実現～（平成23年度から実施予定）

分別収集方式をより有効な形に改善し、資源化減量化を推し進めます。

### 1. 新規分別の追加

古布、家庭系植木剪定枝などの資源化を開始します。

### 2. 戸別収集の導入

ごみを戸別収集化し、まちの美化、ごみ出しのマナーと利便性を向上させます。その他の資源物の拠点回収についても、分かりやすいカゴ出し方式等を取り入れます。

### 3. 指定袋制の導入

適正排出の促進及び減量の動機づけの向上を図るため、第1期半減目標に基づき、最適なサイズの指定袋を世帯ごとに一定枚数無料配布する葉山独自の指定袋制で、発生抑制及び費用負担の公平性を図ります。

### 分別収集の新旧対照図

現 行		計 画
可燃ごみ 植木剪定枝（事業系）	▶	燃やすごみ 植木剪定枝 古布 廃食油
不燃ごみ	▶	埋め立てごみ アルミ缶 スチール缶 スプレー缶 金属類 小型電気製品
ガラスびん 乾電池 プラスチックごみ 容器包装プラスチック 新聞、雑誌、ダンボール 紙パック ミックスペーパー ペットボトル 白トレイ	▶	ガラスびん 危険ごみ（乾電池等） プラスチックごみ 容器包装プラスチック 新聞、雑誌、ダンボール 紙パック ミックスペーパー ペットボトル 白トレイ
粗大ごみ		粗大ごみ

※粗大ごみの回収、高齢者向けのふれあい収集は引き続き実施します。  
※古紙類・古布を始めとする有価物については、集団回収化を進めます。

## ② 生ごみ処理の推進 ～更なる普及に向け、継続率を向上～

ごみの代表格である生ごみの自家処理を推進し、ごみの収集と処理の効率を高めます。

1. 使いやすい処理機の普及：安心して利用できる手軽な処理機等の普及を進めます。
2. 使用率・継続率の向上：きめ細やかなケアにより、機器の使用率及び処理の継続率を上げ、生ごみ処理の質を底上げします。
3. 集合的な処理方式の調査：事業系厨芥ごみなど集合的な処理が必要となる生ごみの資源化の仕組みについても、調査を進めます。

## ③ 事業系ごみの資源化減量化

ごみの2割以上を占める事業系ごみの資源化減量化及び適正排出を進めます。

1. 適正排出の促進：近隣自治体からの流入や不適切な排出を防ぐため、手数料や排出ルールの見直し、受入体制の強化を進めます。
2. 協働体制の構築：事業系厨芥ごみの効果的な資源化など、事業者と協働で取り組む体制の構築を進めます。

#### ④ その他の施策

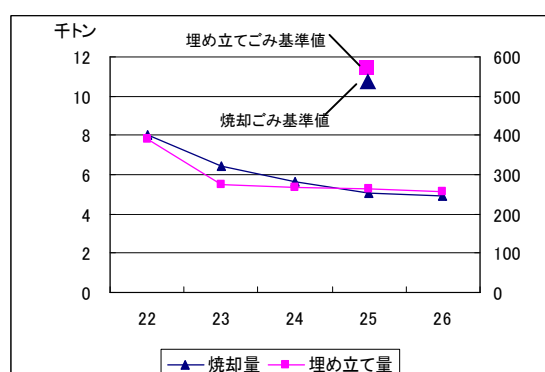
ごみの収集の円滑化及び資源化推進に資する各種施策を進めます。

1. 資源回収拠点の拡充 : 店舗回収の拡充のほか、町民が各種資源物を持ち込めるリサイクルセンター（仮称）の設置を進めます。
2. 高齢者・子育て世帯の支援 : ごみ出しが困難な世帯に対する支援を整備します。
3. 環境教育の充実 : 将来の葉山を担う子どもたちに、学校教育の段階から資源化減量化の大切さを伝えていきます。

### ごみ処理の見通し

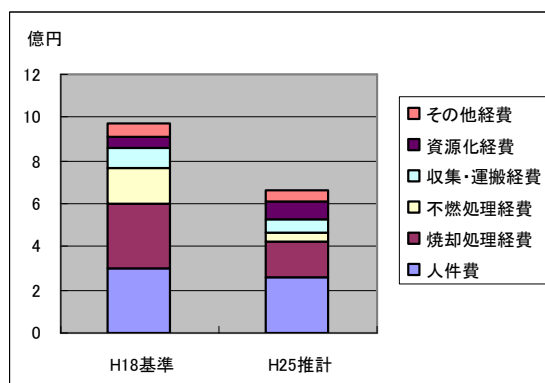
#### ① ごみ量の推計

年間のごみ量は、第一期目標に向けた施策の実施により、平成25年度に焼却ごみ量は5,088トン、埋め立てごみ量は263トンまで減量すると推計しています。これらは、基準年となる平成18年度実績比で、焼却ごみは約52%、埋め立てごみは約54%減となり、目標が達成される見込みです。



#### ② ごみ処理費の推計

年間のごみ処理費は、右図のとおり第1期目標年度に7億円以下まで下げることができる見込みです。ごみの減量により、焼却炉を現在の2系列運転から1系列運転に切り替えるなど、施設維持管理費の抑制を図ります。項目別では、焼却と不燃ごみ処理経費が減り、逆に資源化経費が倍増する見込みです。



#### ③ 施設の整備・維持管理に関する方針

施設の老朽化が進んでいる焼却処理については、適正な維持管理の継続に努めるとともに、民間委託への切り替え及び他団体との協力体制も視野に入れ、長期的な適正処理の確保を進めていきます。その他の品目についても、ストックヤードや各種中間処理施設など、より効率的な処理につながると考えられる施設に関し、経過の中で費用対効果を判断し、整備の検討を行います。

### 葉山町ごみ処理基本計画（案）概要版

- ◆発行：葉山町生活環境部環境課 〒240-0192葉山町堀内2135番地  
Tel. 046-876-1111（内線451） Fax. 046-876-1717  
E-mail: kankyou@town.hayama.lg.jp
- ◆葉山町ゼロ・ウェイスト関連情報  
<http://www.town.hayama.lg.jp/topics2/topics01.html>